

農研機構 農村工学研究部門
Institute for Rural Engineering, NARO (NIRE)
- 研究者の横顔 -

氏名 江波戸 宗大 (EBATO Munehiro)

上級研究員

博士 (農学)

19XX 神奈川県藤沢市生まれ 大和市育ち →しばらく関西

2003 畜産草地研究所 飼料生産管理部 (那須)

2009 中央農業総合研究センター 関東飼料稲研究チーム

2011 中央農業研究センター 土壌肥料研究領域

2021 農業環境研究部門 土壌環境管理研究領域

2026 農村工学研究部門 農地基盤研究領域 (現在に至る)



芸術科学都市 (2025/09/10, バレンシア)

研究者の横顔

<自己紹介>

今年の4月から農地整備グループに仲間入りした、江波戸 (えばと) と申します。変わった苗字なので出身地をよく聞かれますが、千葉県匝瑳市や旭市辺りではそれなりに居ます。父親は田舎暮らしが嫌で都会に出たので自分は神奈川県育ちですが、今は1ターンで千葉の片田舎に住んでいます。今年中には圏央道が近くまで開通するため、通勤がかなり楽になります。成田空港が近く、いろいろなところ (海外を含む) への出張が便利で気に入っています。

<農工研に至るまで>

「専門は？」と聞かれると、「土壌肥料」と答えますけど、様々なところに首を突っ込んできたので、「経歴不詳」です。畜草研で仕事をしていたら、いつの間にか黒毛繁殖和牛の放牧をしていました。その関係で、プライベートでヤギ5頭、ニワトリ10羽、金魚1匹と一緒に暮らしています。毎朝、ヤギの世話をしてから出勤してきます。なので、普段着はツナギのことが多いです。中央農研の時から業務科さんと間違われることがありました。自分の中で一番成功した研究は、土壌物理性に関する内容で、圃場のいたるところを棒で突き刺して土壌の硬さを深さ60cmまで1cmごとに測定し、硬さのバラツキから圃場の排水性を評価するものです。測定が繰り返し作業で途方に暮れてしまい、いつの間にか自動で測定するロボットの開発に携わっていました。農環研に居たときは調査で出張することが多く、1週間ごとにあっちの現場、こっちの現場と飛び回り、繁忙期には月に20日以上も家に帰らず、日雇い労働者のような生活を送っていました。現場で農家さん達と一緒に作業をしているので、営農団体の従業員と間違われることもあります。



<最近のマイブーム>

コロナ禍が過ぎて、人の往来が盛んになったこともあり、国内だけでなく、海外の研究機関とも共同研究を仕込んでいます。文化や習慣が違っていると発想も違うので、とても面白いです。今は、インドと韓国がホットです。宣伝も兼ねて、国際学会にも積極的に参加するようにしています。去年はバレンシア (スペイン) まで行ってきました。来年からは国際学会の役員をすることになりました。これ以上円が安くならないことを祈るばかりです。